

第12回 矢祭もったいない図書館

手づくり絵本コンクール絵本大使ご紹介

「自然・友情・心の大切さと、夢と希望がいっぱいつまった手づくり絵本」をテーマに全国から作品を募集いたしました。その中から、最優秀賞受賞者に絵本大使として任命しましたので、ご紹介いたします。

手づくり絵本コンクールを中心に「子ども読書の街・矢祭」を発信する活動をします。

絵本大使の受賞作品、2作品をご紹介します。

一般の部 最優秀賞「ぼくは…」

石出 千乃さん(いしで ゆきのさん) 千葉県柏市



「もしかしたら、ぼくは…

〇〇かもしれない。」と問いかける。

「ひと」だと思っているぼくは、
いったい何者なの？

黒色を背に、大きな迫力のある絵が
印象的な一冊です。

家族の部 最優秀賞「さかなそだつかわ」

掃部 千鶴(かもん ちづる)さん・夏央(なつお)さん
(福島県南会津郡南会津町)



コロナ禍で会えなくなってしまった東京のいところに、南会津の川を紹介する“手紙になるような絵本”をと、作られた作品です。

美しくそして厳しい自然の中で生きる、多くの魚と生き物たちの営みが、繊細に色鮮やかに描かれています。



? 絵本大使インタビュー

絵本大使のみなさんに、絵本づくりに関するインタビューにお答えいただきました。そのご回答をご紹介します。



いしで ゆきの 絵本大使 石出 千乃さん

一般の部最優秀賞

『ぼくは…』作者

1. 絵本づくりのきっかけはなんですか？



絵本を作り始めたきっかけは、絵本童話科のある専門学校に通ったことです。その科はもうないんですけど、そこで、プロとして絵本や本、デザイン、イラストなどを作っている先生方に直接指導をしてもらったことがきっかけです。

2. いつから絵本づくりをしましたか？



8年くらい前になると思います。

3. もったいない図書館への応募のきっかけを教えてください。



応募のきっかけは学校の授業で、製本までの過程を学んだ上で、作った作品を実際に応募してみようということとなり、製本済みの公募を探していたためです。

4. もったいない図書館への応募回数は？



定かではありませんが、5回か6回だったと思います……。

5. 絵本づくりについてなんでも、フリーでご記入ください。



今回最優秀賞をもらった絵本は自分の中でも楽しく描けたものだったので、もっといろいろな本に触れ、様々なことに挑戦し、読んでくれた誰かに残るようないろいろな絵本を作っていきたいと思います。





絵本大使


かもん なつ お ちづる
掃部 夏央さん・千鶴さん

家族の部最優秀賞

『さかなぞだつかわ』作者

第11回手づくり絵本コンクール家族の部
優秀賞「ぼくのことば」作者

1. 絵本づくりのきっかけはなんですか？

 【夏央さん】


母が絵本作りをしていたので、僕も興味を持って5年生の冬から、初めての絵本作りを始めました。最初の頃は途中で飽きてしまう事もありましたが、母に励まされながら作っていました。

 【千鶴さん】


学生の時、生物と環境との関わり合いを研究し生物多様性の保全に生かそうとする、保全生態学の研究室で学びました。研究室が社会と関わりがあり、自分が絵を描くことも好きだったことから、研究内容や自然をテーマに、絵本、なかでも科学絵本作りにあこがれるようになりました。土に眠っている種子を利用した植生復元や、河原の外来植物を抜き取って絶滅危惧植物を増やす保全活動に取り組む小学校の子ども達に、研究室の仲間と、慣れないながら絵本や紙芝居を作ったり、読み聞かせをしたりしたことがあります。

2. いつから絵本づくりをしましたか？

何歳頃からですか、また、何年前になりますか？

 【夏央さん】

小学5年生11歳の頃からです、2年前です。小さい時から絵を描くことと生き物が好きでした。

 【千鶴さん】
25年ほど前です。

3.もったいない図書館への応募のきっかけを教えてください。



【夏央さん】

母が作品に応募していたためです。今年に応募に関しては、6年生の終わりにコロナ禍で長い休校、ステイホームに。この状況になる前に、一緒に川で釣りをしようと話し合っていた東京のいところがあり、その子に向けて、南会津の川について紹介する絵本を休校中から作り始めました。描き終えた頃には中学での新生活、また、興味が海へと変化したので、沢山遊んだ川への感謝をこめた卒業記念の絵本になりました。



【千鶴さん】

その後も暮らしの中で、様々な絵本を構造も考えながら読んだり、絵本作りや読み聞かせの講座へ参加したり、商業出版した経験のある方にお話を聞くなどしてきました。自分の子育てでは、赤ちゃん絵本や、ボタンをたくさん縫い付けた布絵本を作り、どんな絵本に子どもが興味を持ってくれるのか、楽しみながら試行錯誤しました。

主に震災後から、NPO 法人福島県もりの案内人の会で自然観察会等の案内や「もりのようちえん」の活動を始め、自然がテーマの絵本を作るようになりました。町の図書館でチラシを見て、初めて応募したのは2016年です。以降毎年応募しています。

4. もったいない図書館への応募回数は？



【夏央さん】 2回目です。



【千鶴さん】 5回目です。

5. 絵本づくりについてなんでも、フリーで記入ください。



【夏央さん】

今回の絵本作りで、僕は「さかなクン」の絵を参考にしました。さかなクンの描く絵はとても生き生きと描かれていて、僕が描きたい魚の絵にとっても合っていました。魚を描く時に特に丁寧に描いたのは、魚の目です。目は魚に表情を与える上でとても大切な部分だと思います。目の光り方や色なども魚の種類によって違うので、そこを丁寧に描くようにしました。目は魚だけではなく他の生き物を描く時にも丁寧に描くのが大事です。人や動物の目を生き生きと描けば、自分が作った絵本がもっといいものになると思います。



【千鶴さん】

絵と文の相互作用やめくりの効果を考えながら表現方法を探る、絵本作りが楽しいです。小さな絵本の中に大きな世界が広がっていると感じます。コンクールに応募し問題ないと言っていたいただいた自作絵本を読み

聞かせすることは、大きな喜びです。聞いてくれている子どもさんたちのキラキラした目や、読み終わった後にかけていただいた言葉が忘れられず、制作を続けています。応募が学びの機会となり、手作り絵本の魅力ある世界を深く知ることができ、矢祭町とコンクール運営に関わる皆様、先生方へ深く感謝申し上げます。

